

2008年4月15日

早稲田大学理工学術院と三菱マテリアルが「産学連携に係る包括協定」を締結

学校法人早稲田大学理工学術院（所在地：東京都新宿区、学術院長：橋本周司）と三菱マテリアル株式会社（所在地：東京都千代田区、社長：井手明彦）は、2008年4月15日、材料分野での教育・研究の充実を目的に「産学連携に係る包括協定」を締結いたしました。

〔写真左：橋本周司 早稲田大学理工学術院長 / 右：橋本真幸 三菱マテリアル株式会社常務取締役〕



早大理工学術院と三菱マテリアルは、包括協定書に基づき、早大の材料・金属・ナノ材料系分野の教員と材料・エネルギー分野の研究交流及び意見交換をとおして新しい研究開発の展開を図ると共に、材料関連分野の教育・研究を活性化させることを目指します。これにより、日本の将来の材料・素材産業を担う人材育成を目指し、この分野の戦略策定や発展に貢献することを目的とします。この連携活動を推進させるため、連携協議会を設置し、連携プログラムを選定し、プログラムの内容について継続的に評価を行い、効果的な連携活動を推進していきます。連携プログラムに関しては、材料評価に関する研究・寄附講座・インターンシップ等を介して研究・教育に関する様々な具体的な行動の実施が期待されます。



早大理工学部、理工学研究科は2008年10月、創立100周年を迎えます。その歴史の中で特に材料分野においては1938年に応用金属学科を開設し、時代の要請に対応して金属学科、金属工学科、材料工学科、物質工学科へと学科名称を改称し、教育・研究を行い、多数の有為な人材を社会に輩出してきました。さらに、2007年4月には理工学部・理工学研究科を理工学術院に改組し、基幹理工・創造理工・先進理工の3学部・研究科へ再編しました。これにより、社会的要請に応える新理工系モデルを構築し、学界・産業界・社会との連携・

融合を可能とする新しい都市型研究教育拠点として更なる発展を目指しています。また、学科の開設と同時に研究の中心の場として1938年に鑄物研究所（現：各務記念材料技術研究所）を設置し、学部・大学院との共同のもと最先端の研究開発をすすめる人材育成の一翼を担ってきました。

本包括協定により早大理工学術院が培ってきた材料分野における基礎的研究に留まらず、新機能性材料等の応用研究や、産業界との交流による実践的な教育を通して高い専門性を持った人材の育成を推進していきます。

一方、三菱マテリアルは、創業以来、銅、セメント、シリコン・電子材料や超硬材料などの材料全般に関する基幹事業を中心に研究開発の充実化を図ってきました。しかし昨今の材料技術の急速な進歩により、将来を見据えた高度な基礎技術の重要性は益々高まっており、また、その研究開発のスピードアップも急務となっています。

地球環境の悪化、資源の枯渇やその国家的な困り込みが現実味を帯びて来た今、省エネルギーや地球温暖化対応など環境意識も日に日に高まっています。三菱マテリアルが、21世紀の社会を支えるに相応しい材料開発を通じて、社会の高度技術化、情報化、国際化のニーズに応えながら、循環型社会の実現に貢献できる総合素材メーカーとして成長するために、今回の早大理工学術院との産学連携が重要な役割を担うものと考えています。



